

RACING S 150 シリーズ

SCOOTER

取扱説明書



KYMCO

前書き

ユーザーの皆様へ：

KYMCORACING S 150 シリーズをお買い上げくださり、誠にありがとうございます。
います。

本取扱説明書は、**KYMCORACING S 150** シリーズ製品を長期的かつ安全にご使用いただくため、正確な操作方法、メンテナンスおよび調整方法、その要領などを詳細に説明したものです。

本モデルは、バイク環境保護法規の排気規制基準に適合しており、低汚染、低噪音、省エネの環境保護要求を満たすものです。本製品は優れた品質を有しますが、最良の性能を維持するため、定期的なメンテナンスが必要です。

安全かつ快適な走行のため、本マニュアルをよくお読みください。

本マニュアルの内容は、実際の購入バイクと異なる場合があります。

重要情報

ご注意

これは「安全警告」マークです。このマーク内の説明はお客様に傷害をもたらす恐れがあります。傷害や死亡事故が起こることのないよう、このマーク内の全ての安全情報説明を必ずお守りください。

ご注意

これは「注意」マークです。スクーターまたは金銭的な損害が発生しないよう、このマーク内の説明の予防措置については必ずお守りください。

警告

これは「警告」マークです。このマーク内の説明は、危険な状況があることを知らせています。この危険な状況を回避しない場合、死亡または深刻な傷害が起きる場合があります。

*製品および各仕様に変更があった場合、別途通知はいたしません。

重要情報

バイク識別番号

1. エンジン番号：



2. 車体番号：



重要情報

バイクデータの収集

本モデルの **ECU** はバイクの運転情報の収集と記録を行い、それに基づいて故障の診断と問題解決を図ることができます。

情報を取得するには、保全点検またはメンテナンス時に **KYMC**O 専用の診断ツールを診断用ポートに接続する必要があります。

右図参照

KYMCO のモデルによりセンサーと記録情報が異なる場合がありますが、主な情報は次のとおりです。

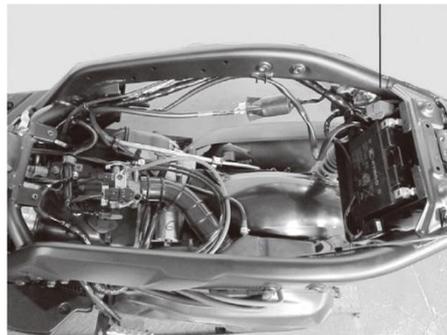
1. バイク状態とエンジン性能。
2. バイク噴射および排気関連情報。

下記の場合を除き、**KYMC**O は情報を第三者に漏洩することはありません。

1. バイクのユーザーと所有者の同意を得ている場合。
2. 法律の規定により必要な場合。
3. 訴訟により裁判所への提出が必要な場合。

4. 研究開発のため、当該情報が個別のバイクや所有者と結び付けられない場合。

診断用ポート



目次

1.安全運転に関する注意事項	1
2.バイク各部の名称	2
3.メーターおよび制御装置の操作	3
4.エンジンの始動	4
5.正しい乗り方	5
6.走行前の点検	6
7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理	7
8.クリーンシステムとそのメンテナンス	8
9.諸元表	9
10.noodoe 車載ネットワーク機能の紹介	10

1.安全運転に関する注意事項

1-1.運転前の点検

1-5.服装

1-6.積載物

1.安全運転に関する注意事項

1

運転前の点検

1. 取扱説明書と注意事項をよくお読みください。
2. 運転者はヘルメット、グローブ、ゴーグルなどを着用してください。
3. 安全運転に影響する服装は避けてください（ロングスカート、ワイドパンツなど）。
4. 袖口が広すぎると、ブレーキレバーに引っかかることがあります非常に危険です。
5. ブレーキレバーの操作の妨げになる状態を避けてください。
6. 日頃の点検定期点検を心がけてください。
7. タイヤの外観を目視点検し、異物や異常な摩耗がないかを確認してください。
8. マフラーから排出される排気には体に有毒な一酸化炭素が含まれています。
9. 通気の良い場所でエンジンを始動します。



1.安全運転に関する注意事項

1. エンジン停止の後、エンジン本体とマフラーは非常に高温になっていますので、触れないようにしてください。
2. 駐車する際は、枯れ草や可燃物の近くを避けてください。
3. エンジン停止時にマフラーは非常に高温になっています。駐車の際にはマフラーを壁や人のいない方に向けるなどして事故が生じないようにしてください。



高温につき触れないでください

4. 運転の際には両手でハンドルを握り、両足はフットレストにのせます。後部の搭乗者は両手でしっかり運転者の腰部をつかみ、足はフットペグにのせます。
5. 後部搭乗者は、高温になっているマフラーに注意して乗り降りしてください。



1.安全運転に関する注意事項

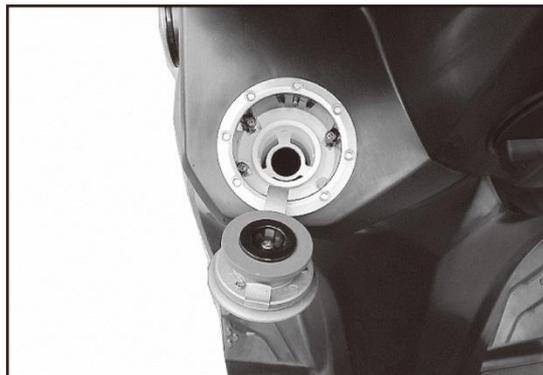
1

1. 急激なハンドル操作や片手運転をしないでください。
2. 道路交通規則を遵守してください。
3. 積載物がある時とない時ではハンドル操作の安全性が異なります。
4. 積載物の制限を超えることがないようにしてください。積載物はしっかり固定し、安全に注意して走行してください。

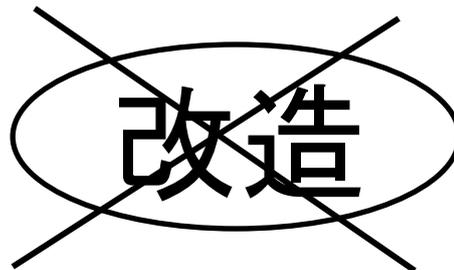


1.安全運転に関する注意事項

1. 給油時は火気厳禁とします。
2. 給油時にはエンジンを止めてください。



3. バイクの構造と機能は密接に関係しているため、改造は操作性能、寿命、運転の安全性に悪影響を及ぼします。
4. 法律では改造を許可していません。違法行為である改造を行わないでください。
5. 改造したバイクには保証が適用されなくなります。



1

1.安全運転に関する注意事項

1

⚠️ ご注意

- 快適な服装でゆったり運転することが安全の秘訣です。
- 交通規則を守り、急がず、焦らず、安全運転を心がけてください。
- 走行時には安全運転を妨げるような服装を避けてください。（ロングスカートやワイドパンツなど）。
- 走行中または走行後の30分以内は、マフラーが高温になっています。触れないようくれぐれも注意してください。
- 駐車する際は、枯れ草や可燃物の近くを避けてください。タンデムグリップが装着してあります。乗り降りや移動の際に衣服、ズボン、スカートをつっかけることがないようにご注意ください。運転者自身と後部搭乗者の安全に留意してください。



タンデムグリップ

服装

- ヘルメットをかぶる際にバンドをしっかり締めてください。
- 袖口に注意してブレーキレバーにつっかえることがないようにしてください。



- 運転時には両手でハンドルをしっかり握り、片手運転は絶対にしないでください。
- 平底の靴を着用した方が安全です。

1.安全運転に関する注意事項

積載物

- シート内ラゲッジスペースに入れられる積載物は約 10 kg までで



- フロントポケットの積載物の重量は 1.5 kg までで

- フロント・リアキャリアの積載物の重量は 5 kg までです。

- 前部にフロントバスケットやフレームを装着することを禁じます。ヘッドライトを遮り、安全に影響します。



2.バイク各部の名称

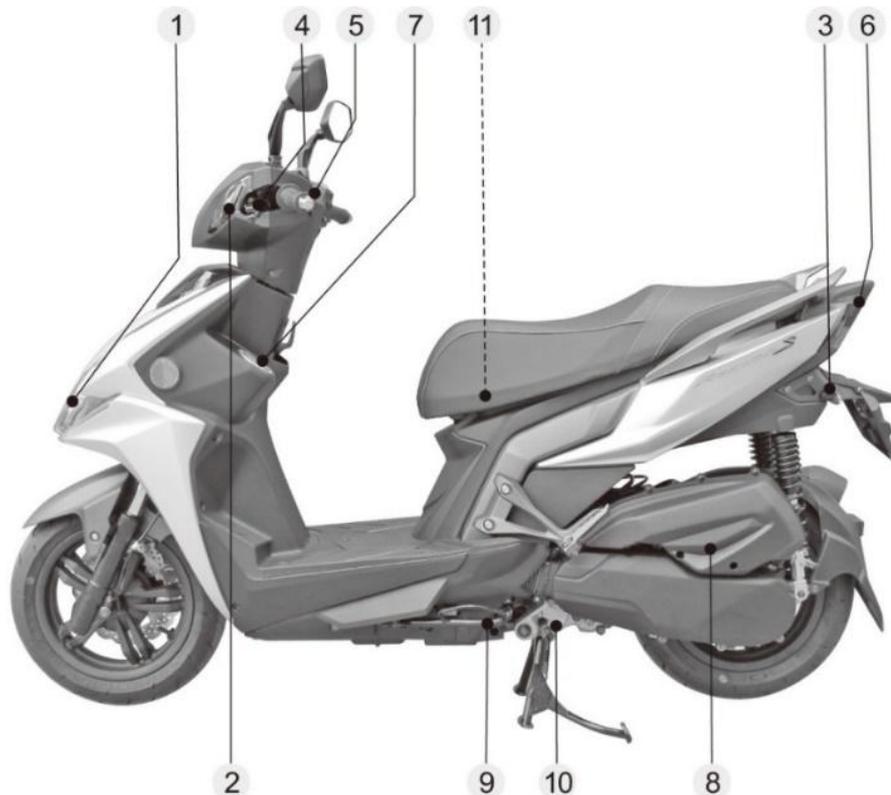
2-1.左側面図

2-2.右側面図

2. バイク各部の名称

左側面図

1. ヘッドライト
2. 左前部ウィンカー
3. 左後部ウィンカー
4. 後部ブレーキレバー
5. ハイ・ロービーム切換スイッチ/ ウィンカースイッチ/ ホーンスイッチ
6. テールランプ/ブレーキランプ
7. ガソリン注入口
8. エアフィルター
9. サイドスタンド
10. エンジン番号
11. ヘルメットホルダー

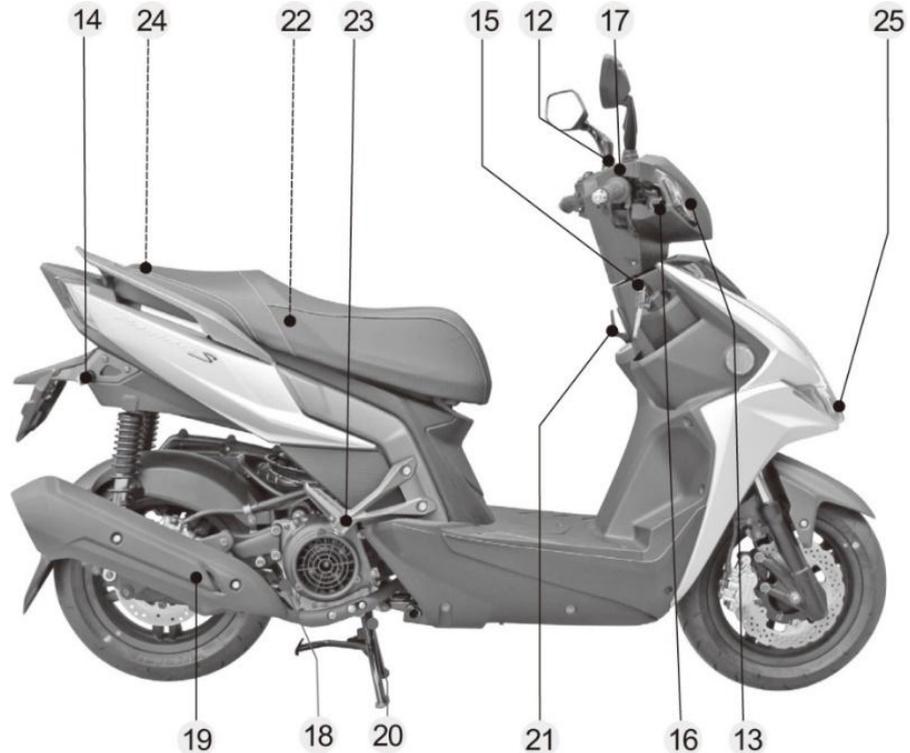


ご購入のバイクと写真のモデルとが異なる場合があります。

2.バイク各部の名称

右側面図

- 12.メーター
- 13.右前部ウィンカー
- 14.右後部ウィンカー
- 15.イグニッション
- 16.フロントブレーキレバー
- 17.ヘッドライトスイッチ/セルスイッチ
- 18.オイルゲージ
- 19.マフラー
- 20.センタースタンド
- 21.コンビニック
- 22.ヘルメットトランク
- 23.後部乗客フットレスト
- 24.車体番号
- 25.前左/右部ポジションランプ (LED)



ご購入のバイクと写真のモデルとが異なる場合があります

3.メーターおよび制御装置の操作

3-1. メーター、インジケーター

3-4. 鍵穴シャッターおよびキー

3-5. イグニッション

3-6. ステアリングロック

3-7. スタータースイッチ、ヘッドライトスイッチ

3-8. ハイ・ロービーム切替スイッチ、パッシングライト

3-9. ウィンカースイッチ、ホーンスイッチ

3-10. ハンドブレーキの使用法

3-11. トランク内のユニット

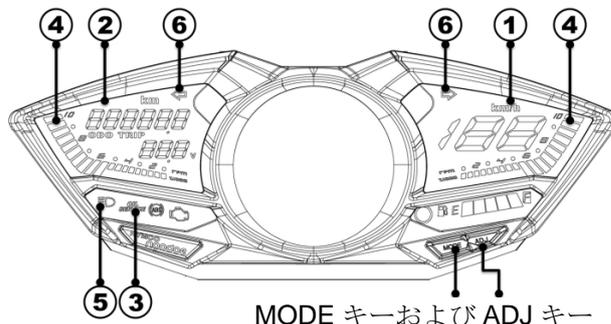
3-12. イグニッション横 USB DC5V 充電ポート

3-14. ABS アンチロックブレーキシステム

3.メーターおよび制御装置の操作

3

- 1 スピードメーター：**
走行速度は時間当りキロ数 (km/h) で表示されます。
- 2 積算距離計：**
行走総距離をキロ (km) で表示します。
*積算距離計のリセット：
 1. ADJ キーを 0.5 秒押すと ODO→TRIP→ブランクの順で 3 種類のモードになります。
 2. TRIP モードの時に ADJ と MODE キーを押すとリセットされます。
- 3 オイル交換インジケーター：**
走行が 1000 キロに達した際、インジケーターが点灯し、オイル交換が必要なことを知らせます。
*オイル交換インジケーターのリセット：
 1. ADJ キーを約 0.5 秒押すと ODO→TRIP→ブランクの順に 3 種類のモードになります。
 2. ブランクモードの時に ADJ と MODE キーを同時に押すとリセットされ、インジケーターが消灯します。
- 4 タコメーター (RPM)**
1 分当りのエンジンの回転速度を示します。1 目盛りが 1000rpm に相当します。
- 5 ハイビームインジケーター：**
ヘッドライトがハイビームになっていると点灯します。
- 6 方向指示器：**
ウィンカーのスイッチを入れたら点灯します。



ご注意

- オイル交換インジケーターは 1000 キロ走行すると点灯するため、最初の 300 キロ走行でオイル交換が必要な際にインジケーターは点灯しないため、ご注意ください。点灯しなくてもリセットは可能です。これにより、インジケーターの表示が正確なものに保たれます。

3.メーターおよび制御装置の操作

7 燃料計：

ガソリンタンクの燃料の残量を示します。燃料計の表示が赤または E になった場合、無鉛ガソリンを給油してください（タンクが空になると給油ポンプが空転し損傷します）。

8 ABS 故障インジケータ：（ABS モデルに適用）

- ABS システムが故障すると点灯します。KYMCO 正規販売店代理店で点検を受けてください。
- 速度が 6km/h になるとランプが消えるのは正常です。

9 OBD ランプ（エンジン自己点検ランプ）：

イグニッションを ON にすると自動的に点灯し、エンジン始動後 10 秒以内に消灯します。これはバイクが正常な状態にあることを示します。エンジン始動後も点灯を続ける、または始動から 10 秒後も点灯し続ける場合は、故障があることを示します。代理店でメンテナンスを受けてください。

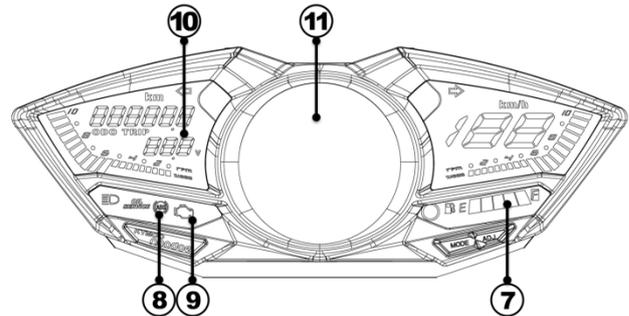
10 バッテリー電圧：

現在のバッテリー電圧 V（ボルト）を示します。イグニッションを ON にし（ヘッドライトは OFF）、エンジン始動後にもバッテリー電圧が低い場合（10V 以下）、代理店でメンテナンスを受けてください。走行中にバッテリー電圧が 10V 以下または 16V 以上になった場合、代理店でメンテナンスを受けてください。

11 noodoe 車載ネットワーク：

携帯電話と接続してオリジナル設定によるメーター画

面を表示します。第 10 章をご覧ください。または KYMCO オフィシャルサイトを参照するか KYMCO noodoe 説明書をダウンロードするか購入した KYMCO 正規販売店にお尋ねください。

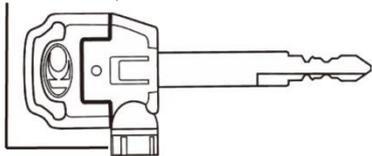


 ご注意
● 燃料計が E または赤になった際には、無鉛ガソリンを給油してください。

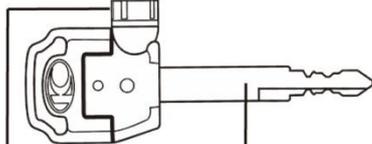
3.メーターおよび制御装置の操作

鍵穴シャッターと2種兼用キー

(シャッターキー)



(スリット)



(イグニッションキー)

3



ご注意

- シャッターキー（マグネットキー）を紛失した場合、キー番号を代理店に知らせ再購入する必要があります。

鍵穴シャッター

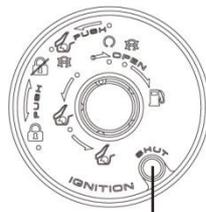
盗難を防止するため、駐車時には鍵穴シャッターを使用してください。

ロックの方法：

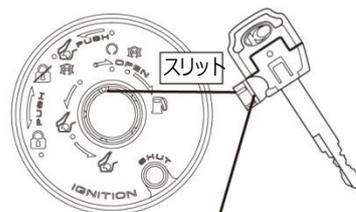
鍵穴シャッターのロックボタンを押すと、鍵穴シャッターが作動します。

解除の方法：

シャッターキーをスリットに合わせて差し込み、右向きに回転させれば、カバーが開きます。



鍵穴シャッター
(SHUT)

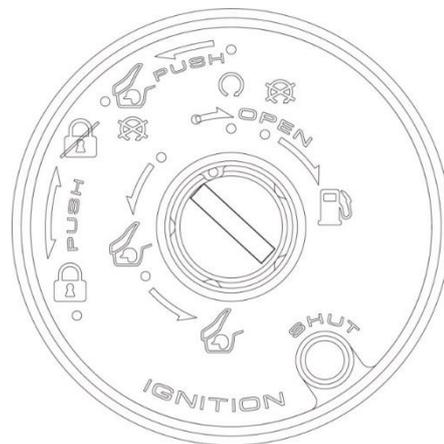


シャッターキー
(OPEN)

3.メーターおよび制御装置の操作

イグニッションの位置

-  : ハンドルがロックされ、キーを抜くことができます。
-  : 電源がすべて OFF になり、キーを抜くことができます。(エンジン停止)
-  : 電源が ON になり、キーを抜くことができません。(エンジン始動可能)
-  : ガソリタンクのカバーが開き、キーは自動的に元の位置に戻ります。
-  : トランクが開きます。
 - 3段階に分けてトランクを開きます。
 - (1) エンジン停止時に開きます。
 - (2) エンジン運転時に開きます。
 - (3) ハンドルロック時に開きます。



警告

- 走行中にキーを  または  に回さないでください。事故発生の主な原因となります。

3.メーターおよび制御装置の操作

ハンドルロック

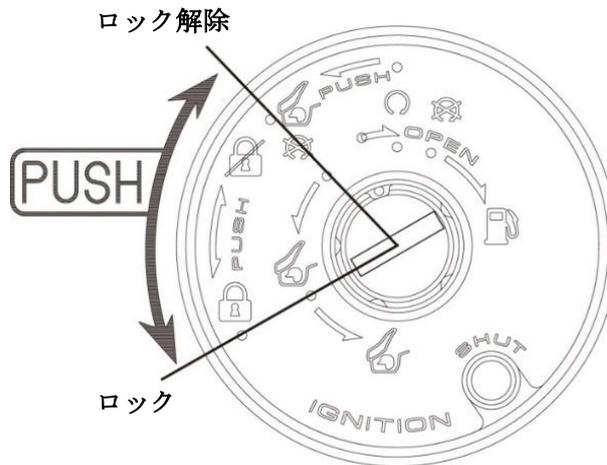
盗難防止のため、駐車の際にはハンドルロックをかけてください。

ロックの方法：

キーを押しながら左の  まで回し、キーを抜きます。

ロック解除：

キーを  の位置から押しながら  まで回転するとロックは解除されます。



ご注意

-  の位置にある時、ハンドルを軽く動かしてロックされているかどうかを確認してください。
- 交通安全の妨げにならない場所に駐車してください。

3.メーターおよび制御装置の操作

スタータースイッチ

始動の際は、前輪または後輪ブレーキレバーを握り、電源が ON になっていることを確認してください。



3.メーターおよび制御装置の操作

ハイ・ロービーム切換スイッチ

ハイ・ロービームを切り替えるスイッチです。

- ☰D : ハイビーム照射。
- ☰D : 市内走行または対向車がある場合は相手の迷惑にならないようロービームを使用してください。



パッシングライトスイッチ

PASSING↓... ロービーム時にヘッドライトスイッチを続けて押すと点滅します。対向車に警告するために用いることができます。



3.メーターおよび制御装置の操作

ウィンカースイッチ

右左折またはレーン変更の際にウィンカーを使用します。
スイッチを入れると時ウィンカーが点滅します。

⬅：左折。

➡：右折。

- 解除するにはウィンカースイッチを押します。



ホーンスイッチ

イグニッションキーを  の位置にしてホーンスイッチを押すと、ホーンが鳴ります。



3

ご注意

- 方向指示器は自動的に解除されませんので、使用後に解除する必要があります。解除を忘れると走行の安全に影響がでます。
- イグニッションキーが  の位置にあるとウィンカーは作動しません。

3.メーターおよび制御装置の操作

シートロック

ヘルメット用トランクを使用するには、シートを開ける必要があります。

シートの開け方：

1. エンジン停止後、イグニッションキーを  の位置にしてキーを左に回転させるとシートが開きます。
2. エンジン始動時でも、イグニッションキーを  の位置にし、キーを押しながら左に回すとシートを開けることができます。
3. ハンドルロックを  の位置にし、左に回すとシートを開けることができます。

シートの閉め方：

1. シートを下ろし、押すと自動的にロックされます。
2. シートを軽く持ち上げて、ロックされたかを確認します。



ご注意

- キーをトランクに入れたままシートをロックすることがないようにしてください。

ヘルメットホルダー

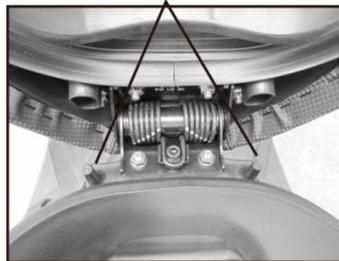
使用方法：

1. シートを開きます。
2. ヘルメットのフックをホルダーに掛けます。
3. シートを下ろし、シートロックします。

取り出し方：

使用方法 1.を参照し、シートを開いてヘルメットを取り出します。

(ヘルメットホルダー)



ご注意

- 走行時にヘルメットをホルダーに掛けたままにしないでください。バイクや塗装に破損が生じることがあります。

3.メーターおよび制御装置の操作

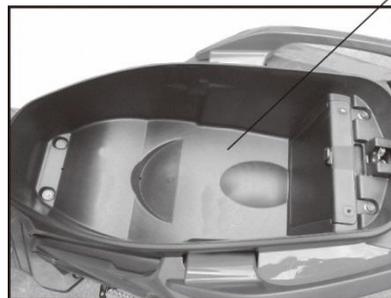
ヘルメット用トランク

ヘルメット用トランクはシートの下にあります。
シートの開け方は(3-9)シートロックの使用方法 1.
項をご覧ください。
ヘルメットを入れる際、ヘルメットの下側を下にします。

ご注意

- ヘルメットトランクに入れる物の重量が 10 kg を超えることのないようにしてください。
- シートがロックされたかを確認してください。
- エンジンの温度が高くなりますので、耐熱性の低い物、食品、可燃性の物品を入れしないでください。
- 貴重品や割れやすい物も入れしないでください。
- 洗車時に水が入ることがありますので注意してください。

ヘルメット用トランク



USB 携帯電話充電ポート-1

製品規格

項目	規格	備考
作動電圧	DC 5V \pm 10%	

出力

項目	規格	備考
出力電圧	DC 5V	
出力電流	電流規格 2A 以下のデジタル製品の充電のみに使用するようご提案します。	

機能

項目	規格	備考
機能	<ol style="list-style-type: none">非使用時にはグリーンの LED が点灯しています。正常な充電時には赤の LED が点灯しています (充電中)。充電時に赤の LED が点滅すると異常があることを示しています (出力短絡) (判定基準 1)。バイクのバッテリーが低電圧になると赤ランプが点滅し、10 秒後に充電できなくなることを通知します (判定基準 2)。	

※判定基準 1:

- 短絡が生じた際、通電停止/出力停止となり LED 赤ランプが点滅し続けます。
- 短絡保護が起動すると、3 秒以内に短絡を解決し正常な状態に回復します。

※判定基準 2:

- USB 最低充電電圧: DC 12V。
- 充電時に電圧が最低充電電圧より低くなると [低電圧が 20 秒続くと低電圧と判断]、警告音を発し、警告灯が点灯します。警告は 10 秒続き、その後通電が停止します。
警告音のサイクル: 0.5 秒間ブザー音が二度鳴り、0.5 秒間停止します。
警告灯のサイクル: 0.5 秒間点灯し、0.5 秒間消えます。
- 警告音と警告灯は 10 秒間続きますが、その間に充電製品を外すと、警告は停止します。
- 警告音と警告灯が 10 秒間警告を行っても、充電製品を外さない場合、警告は 10 秒後に止まります。



携帯電話充電ポート



USB ポート

3.メーターおよび制御装置の操作

USB 携帯電話充電ポート-2

注意事項

項目	規格	備考
使用状態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使用中に熱を発生しますが、これは正常な現象です。 2. キーを入れONにすると、エンジンを始動していない時にもUSB充電ができます。ただしバッテリー電圧が低くなり、判定基準2の状況が生じると、キーを入れONにした際に充電灯が赤ランプに変わるまでの時間は携帯電話のメーカーにより異なります。 3. バッテリーの電圧が下がらないよう、エンジンを始動してUSB充電を行うことをお勧めします。 4. USBハブを使用しないでください。(例：1対2またはそれ以上のハブで充電すると、過負荷が生じ危険です)。 5. USB充電器を分解したり改造したりしないでください。漏電などが発生して危険です。 6. 充電時にバッテリー電圧が不足すると、警告音と警告灯による通知が生じ、警告の10秒後に通電が停止します。 7. 製造元が提供した電線で充電してください。他の電線を使用すると充電できないことがあります。 	

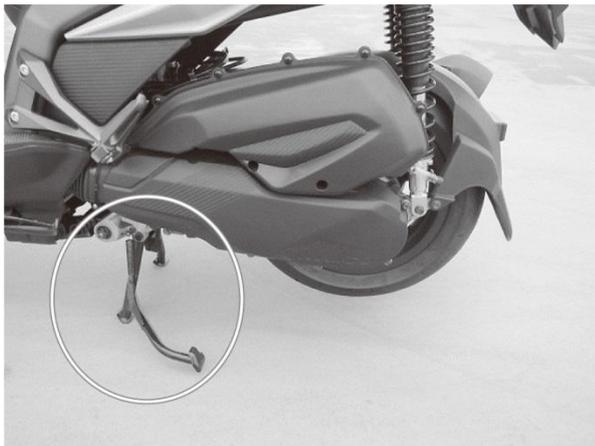
項目	規格	備考
	<ol style="list-style-type: none"> 8. 製造元の電池を使用することで最も効果的な充電効率を得ることができます。他の電池を使用すると充電効率が低下したり、ランプや警告音が正常に作動しなくなったりします。 9. 短絡が生じた場合（赤ランプが点滅）、USB内部の水分凝結が原因であることがあります。USBの充電線を挿したり抜いたりして、水分を除去してください。 10. 充電中に携帯電話のバックグラウンドプログラム（例：ナビゲーターなど）が作動していると、充電完了の際に赤とグリーンランプが交互に点滅することがあります。 11. 充電装置を抜かないでないと、ブザーの警告音を発します。その時間は携帯電話メーカーや電池の品質により異なります。（持続時間も異なります）。 	

4.エンジンの始動

4-3.セルモーターによる始動

4.エンジンの始動

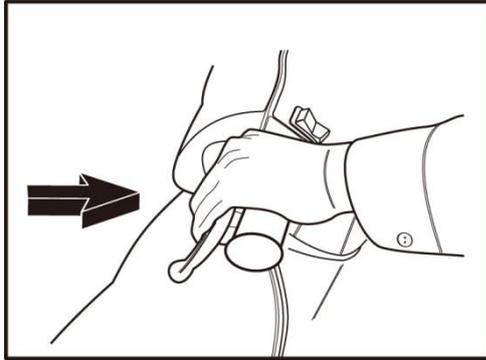
- 始動前にオイルとガソリンを点検します。
- エンジン始動時にセンタースタンドを立てます。



4

4.エンジンの始動

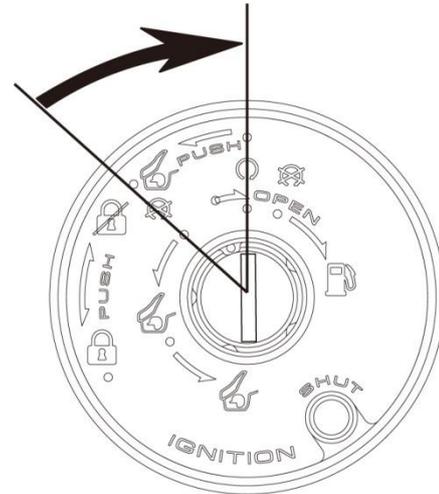
■ 後輪ブレーキレバーを握る



⚠ 警告

- 始動後にバイクが飛び出すことを防ぐため、後輪を固定しておく必要があります（後輪ブレーキレバーをしっかり握ってください）。
- 後輪ブレーキレバーがよく効かず、後輪の固定が十分でない危険です。

イグニッションキーを  に回します。



⚠ ご注意

- キーを  の位置にして、ホーンまたは方向指示器のスイッチを入れると、ホーンまたはウィンカーが作動します。

4.エンジンの始動

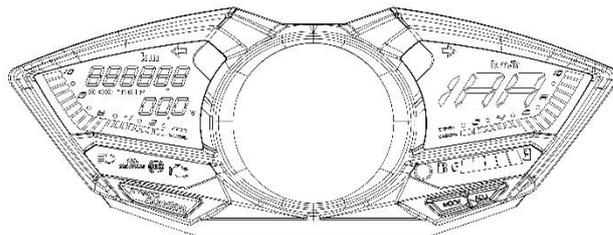
セルモーターによる始動

■ エンジンの始動

アクセルグリップを回さずに、スタータースイッチを押すと、エンジンが始動します。



- エンジン始動後に、暖機運転（約 1-2 分）を行ってください。高山エリアや温度の低い地域では暖機運転（約 3-5 分）が特に必要で、エンジンの作動と走行の助けとなります。



⚠ 留意点

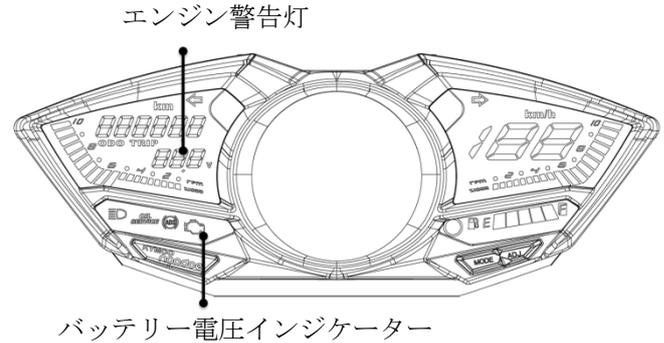
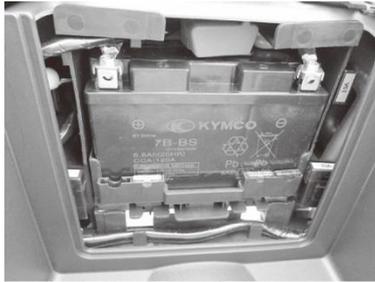
- エンジン始動後、スタータースイッチから指を離してください。
- 運転中にスタータースイッチを押さないでください。エンジンの破損につながります。
- エンジン始動時、後輪ブレーキレバーを握っている必要があります。その時、ブレーキランプは点灯しています。

⚠ 警告

- 運転前に、後輪ブレーキレバーを握り続けてください。
- 排気には人体に有害な一酸化炭素が含まれています。狭い通気の悪い場所で始動しないでください。

4.エンジンの始動

- 始動できない場合、バッテリー電圧が低下（10V以下）していないか点検してください。充電システムの点検またはバッテリー交換が必要になることがあります。



⚠ 留意点

- エンジン始動時、バッテリーがしっかり固定されていることを確認してください。別のバッテリーでジャンプスタートすると機器が破損する恐れがあります。
- エンジン始動時にバッテリー電圧に異常があると、エンジン警告灯が点灯または点滅します。KYMCO 正規販売店で点検を受けてください。

5.正しい乗り方

5-1.センタースタンドの収納

5-2.前後輪ブレーキレバーの解除

5-3.正しい乗り方

5-4.新車の慣らし運転

5-5.雨天の運転

5-6.駐車に関する注意事項

5-7.転倒時の処置

5.正しい乗り方

センタースタンドの収納

後輪ブレーキレバーを握ったまま、バイクを前に押すと、センタースタンドは跳ね上がり自動的に収納されます。

左側から乗車し、真っすぐにすわり、倒れないよう左足を地面に付けてください。



5

⚠ 警告

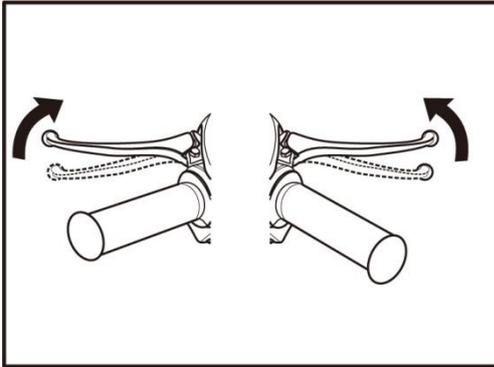
- エンジンを始動したものの走行していない状態では、危険ですからアクセルを開いてエンジンの回転数を上げないでください。

⚠ 警告

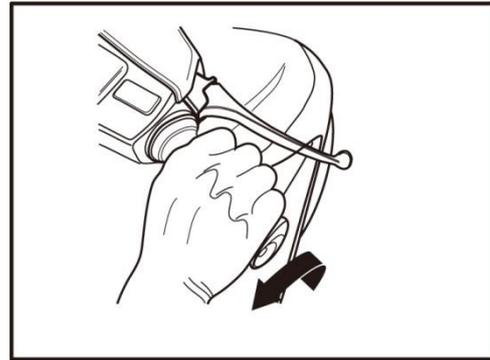
- 走行前は、後輪ブレーキレバーをしっかり握り、エンジンの回転数を不用意に上げないようにしてください。

5.正しい乗り方

前・後輪ブレーキレバーの解除



アクセルグリップをゆっくり回し走行を開始します



⚠ 警告

- ブレーキ解除後、アクセルグリップを不用意にふかさないでください。バイクが飛び出し危険です。

⚠ ご注意

- アクセルグリップを急に回すと、バイクが飛び出して危険です。

5.正しい乗り方

正しい乗り方

出発前にウィンカーをつけ、後方を確認した上で走行を開始します。

速度の調整

速度はアクセルグリップで調整します。

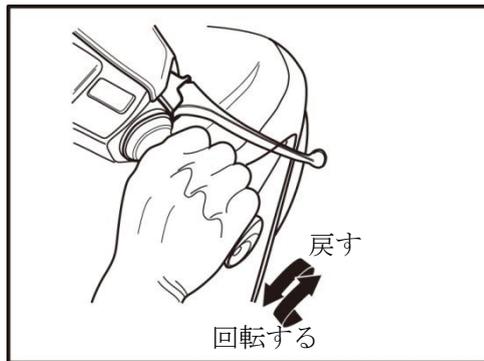
回転する.....速度が速くなります。

ゆっくり加速します。

始動または上り坂では、アクセルグリップをゆっくり回転すると、馬力が増大します。

戻す.....速度が落ちます。

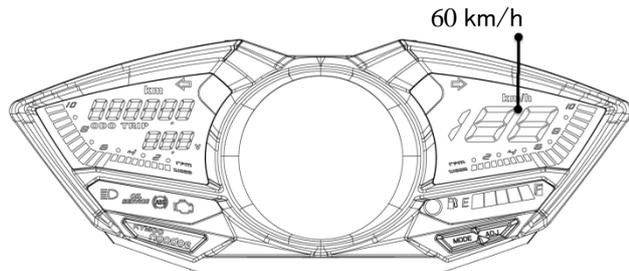
戻す際は機敏な動作が必要です。



5.正しい乗り方

新車の慣らし運転

- 最初の 1000 キロ (km) は新車の慣らし運転期間です。時速 60 キロ (km/h) 以下で走行してください。
- 1000~3000 キロ (km) までは急加速や長時間の高速運転をしないでください。

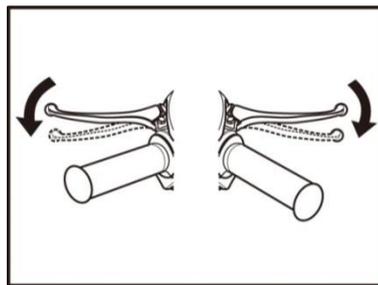


⚠ 警告

- 慣らし運転期間に高速走行すると、エンジンの破損につながります。

前輪と後輪ブレーキは同時に使用してください

- アクセルグリップを完全に元に戻し、前輪および後輪ブレーキを同時に握ります。
- ブレーキレバーの握り方は、最初はゆっくりで、次第に強く握るのが最適です。



⚠ 警告

- 片方だけのブレーキを使用すると、スリップが生じ易くなり危険です。
- 走行中、急ブレーキを掛けるとスリップして非常に危険です。

5.正しい乗り方

急ブレーキや急回転をしないでください

急ブレーキや急回転は横転の原因になり非常に危険です。



雨天時には特に運転に注意してください

- 雨天時の路面は晴天時と異なります。制動距離が長くなるため、速度を落とし、早めにブレーキをかける必要があります。
- 下り坂では、アクセルグリップを完全に戻し、ブレーキを断続的に使いながらゆっくり走行します。

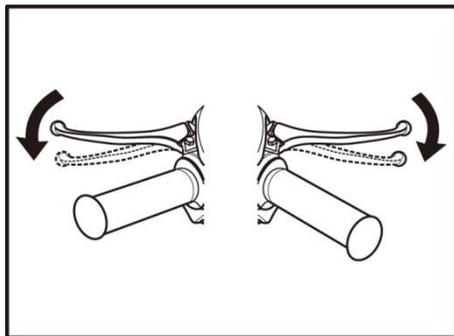


5.正しい乗り方

正確な停車方法

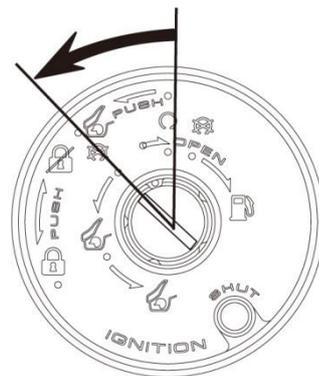
■ 停車地点に近づいた時

- 早目にウィンカーを出し、後方に注意しつつ、ゆっくりと脇に止めます。
- アクセルグリップを完全に戻し、早目に前後輪ブレーキをかけます。この時、ブレーキランプが点灯し、後方の車に警告します。



■ バイクが完全に停止した時

ウィンカーのスイッチを戻し、イグニッションキーを  に戻します。



⚠ 警告

- 走行中にはイグニッションキーを回さないでください。電気システムが作用しなくなり事故の原因となります。停止してから操作するようにしてください。

5.正しい乗り方

■ 停車時

- 左側の平坦な場所でセンタースタンドを立てます。
- 交通の妨げにならない平坦な場所でセンタースタンドを立てます。
- 平坦でないバイクが容易に転倒します。
- 左手でハンドルを真っすぐにして持ち、右手でシート下部横にあるグリップを握り、右足でセンタースタンドを踏みながら右手で車体を持ち上げるようにします。



- 盗難防止のため、駐車時にはハンドルロックをしてからキーを抜いてください。

転倒時の処理

バイクが転倒しエンジンが停止した場合、再びエンジンをかけるには、イグニッションを一旦切ってから再び ON にしてください。



⚠ 警告

- バイクが転倒しガソリンが漏れ出ると危険なため、バイクの傾斜が 65 度を超えるとエンジンは自動的に止まります。

6.走行前の点検

6-1.走行前の点検

6-10.定期点検

6. 走行前の点検

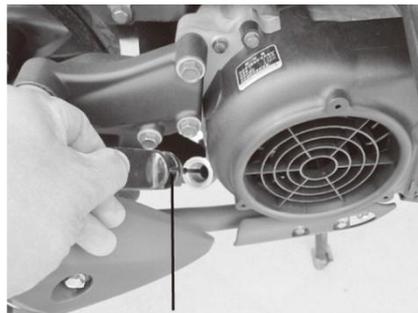
走行前の点検

- 走行前に点検する習慣を身に付けましょう。
- 安全のため、また故障と事故を防ぐため、走行前の点検を行ってください。
- 走行前の点検はそれほど困難ではありません。異常に気づいた場合は、**KYMC**O 正規販売店で点検を受けてください。

■ オイルの点検と補給

センタースタンドを立て、オイルゲージを抜き取り布で汚れを拭き取ります。オイルゲージを直接差込みます（ねじ込まない）。

オイル量を点検します。油面が下限に近づいた時に、オイル量が上限と下限の間になるよう補充してください。



オイルゲージ

⚠️ ご注意

- エンジンやマフラーは高温になっています。オイル点検の際はやけどしないように注意してください。

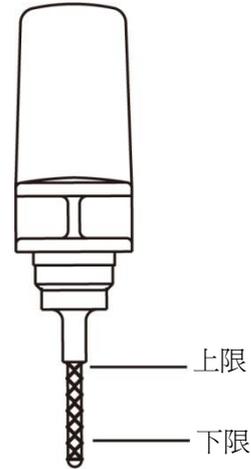
6. 走行前の点検

■ 指定規格オイル

規格 : SAE : 15W/40

API : SG/CD レベル以上。

- 新車は最初の 300 キロでオイル交換をします。以後、2000 キロごとにオイル交換を行います。



⚠ 警告

- 模造品のオイルが多く出回っていますが、それらを使用するとエンジンが故障しやすくなりますのでご注意ください。
- 愛車に規格オイルを使用するため、購車した KYMCO 正規販売店でオイル交換をするようにしてください。

⚠ ご注意

- バイクが傾斜している、または停車後間もない時には、油面が正確に計測できないことがあります。
- エンジン停止後間もなくオイルを点検または交換する場合、やけどしないよう注意してください。

6. 走行前の点検

■ ガソリンの点検と補給

- 燃料計の表示が E に近づいた時には、近くのガソリンスタンドで給油してください。
- 無鉛ガソリンを給油してください。

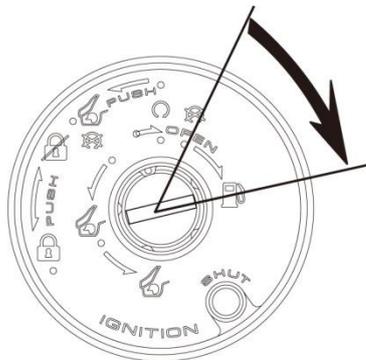
ガソリンタンクカバーの使用方法：

1. エンジンを止めます。

2. イグニッションキーを  から  に回すとガソリンタンクのカバーが開きます。

3. 閉める時にはカバーを押し戻します。

4. エンジンを始動するにはイグニッションキーを  に戻します置。



⚠ 警告

- 給油時は火気厳禁です。
- 給油時にはエンジンを止めてください。
- 給油時には油面がバッフルプレートを超えないようにしてください。バッフルプレートを超えると、ガソリンがあふれ出ることがあります。
- 走行性能を上げるため、1000 キロごとに「KYMCO ノズルクリーナー」を加えてガソリンのジェットノズルを清潔に保つことをお勧めします。
- ガソリンタンクの燃料が不足している場合、燃料ポンプを長時間の作動させないようにしてください。燃料ポンプの正常な寿命に影響します。



バッフルプレート

6. 走行前の点検

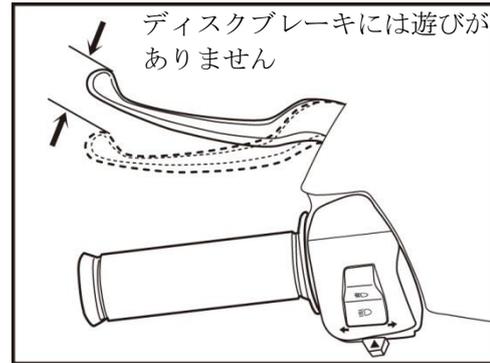
■ ハンドルの点検

- 上、下、前、後、左、右のに動かして、ぶれなどがいないかを確認します。
- 固すぎないかを確認します。
- ハンドルが何かに当たることがないかを確認します。
- 異常がある場合、代理店で点検を受けてください。



■ ブレーキの点検と調整

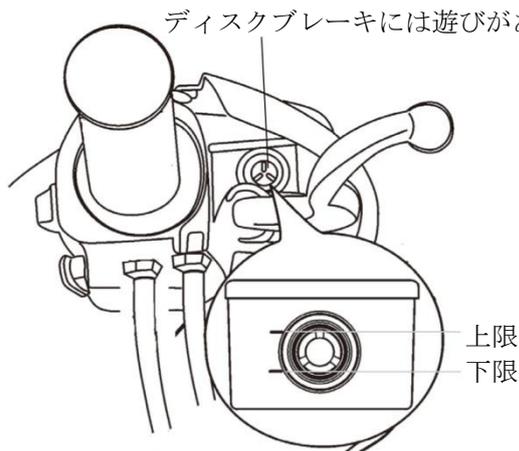
- ディスクブレーキのレバーには遊びがありません。ぶれや遊びが生じた場合は、KYMCO 正規販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。
- 「遊び」とはレバーの低位置からブレーキがかかり始めるまでの距離のことです。



6. 走行前の点検

■ 前部ブレーキオイルの点検

1. ハンドルを真っすぐにし、右側タンク内のブレーキオイルを点検します。上限と下限の印の間にあるようにします。
2. 油面が下限に近づいた際に、ブレーキライニングの摩耗状態を点検します。
3. ブレーキライニングが摩耗しており、規定限度を超えていない場合、オイル漏れがあります。購入した代理店ででの点検を受けてください。



■ ブレーキオイルの補充

1. ハンドルを真っすぐにし、ブレーキオイルタンクカバーの 2 つの固定ネジをはずしてカバーをはずします。
2. DOT-4 ブレーキオイルタンクの上限まで注入し、タンクカバーの 2 つのネジを締めます。
3. ブレーキオイルは 10000 キロまたは 1 年ごとに交換します。

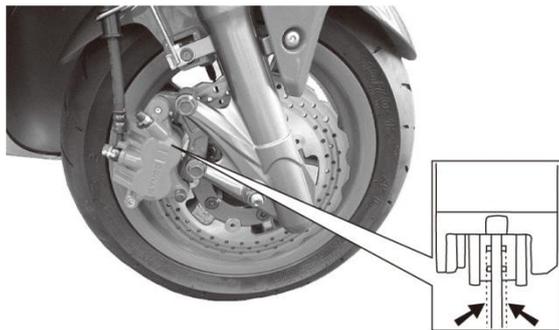


⚠️ ご注意

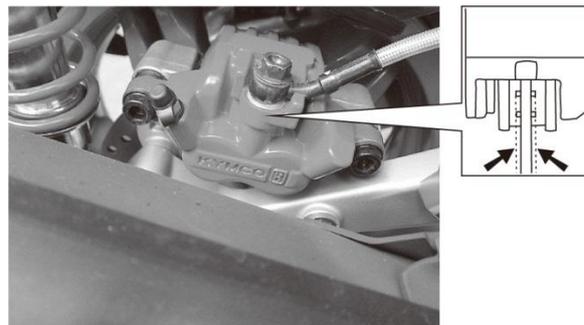
- 異なるメーカーの異なる規格のブレーキオイルを混合使用するとブレーキが効かなくなることがあり危険です。
- ブレーキオイルの補充時には、布などで塗装部を覆い、塗装表面が痛まないようにします。

6.走行前の点検

前輪ブレーキライニングの点検



後輪ブレーキライニングの点検



6. 走行前の点検

■ タイヤの点検

タイヤの地面との接触状態とタイヤの空気圧を点検します。

タイヤと地面との接触に異常がある場合、プレッシャーゲージで圧力を点検します。

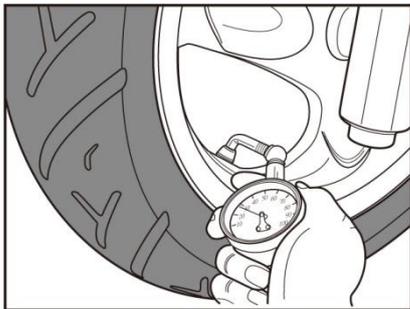
エンジン未始動時のタイヤの空気圧：

前輪 (搭乗者 1 人) : 25.0 PSI (1.75 kgf/cm²)

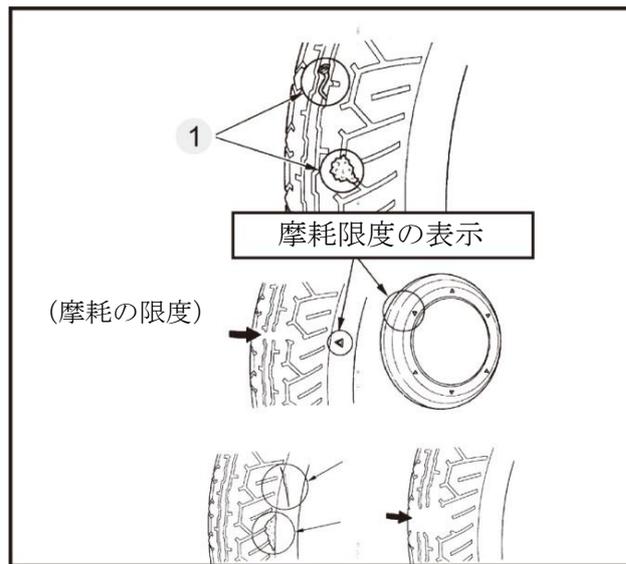
後輪 (搭乗者 1 人) : 29.0 PSI (2.00 kgf/cm²)

前輪 (搭乗者 2 人) : 29.0 PSI (2.00 kgf/cm²)

後輪 (搭乗者 2 人) : 29.0 PSI (2.00 kgf/cm²)



- タイヤ溝内に金属片や石がないかを確認し、あれば除去します (図 1)。
- タイヤに亀裂がある、または溝の深さが磨耗限度を超えた場合、新しいタイヤに交換してください。



6. 走行前の点検

■ ブレーキランプの点検と調整：

- イグニッションキーを  に回します。
- 前、後輪ブレーキレバーをそれぞれ握り、ブレーキランプが点灯するかを確認します。

ブレーキランプが汚れていないか、または破損していないかを点検します。

注意事項

イグニッションキーを  に回しても、エンジン停止スイッチが  の位置にあると、ブレーキランプは点灯しません。



■ ウィンカーの点検

- イグニッションキーを  に回します。
- ウィンカースイッチを操作し、前後左右のウィンカーとインジケーター が点滅するかを確認します。
- ウィンカーが汚れていないか、または破損していないかを点検します



6. 走行前の点検

■ 前後緩衝装置の点検

重量をハンドルとシートにかけ、上下に動かし、作動状態を点検します。



- ヘッドライト、テールランプ、ブレーキランプが点灯するかを確認します。

エンジンを始動しヘッドライトスイッチを ON にしてヘッドライトとリアランプが点灯するか、破損や汚れがないかを点検します。

- メーター表示が作動するかを確認します。

- ホーンが鳴るかを確認します。

イグニッションキーを  に回し、ホーンスイッチを押します。

- バックミラーの角度は適切かを確認します。

シートに座って後方を確認します。また破損や汚れがないかを確認します。

- ナンバープレートの汚れや破損がないかを点検します。

ナンバープレートに汚れや破損がないか、確実に装着されているかを点検します。

- 排気が正常かを確認します。

マフラーに緩みや噪音がないかを点検します。

- 過去に生じた異常がなお存在していないかを確認します。

6. 走行前の点検

■ 定期点検

- 安全で快適な走行を確かなものとするため、定期点検を受けてください。KYMCO 正規販売店でのメンテナンスを受けてください。
- 点検時間と点検項目は取扱説明書をご覧ください。
- バイクを長期間使用していない場合も定期点検を受ける必要があります。

■ 初回点検

新車購入から一か月または走行 300 キロ (km) 時に、点検とメンテナンスを受けてください。

⚠️ ご注意

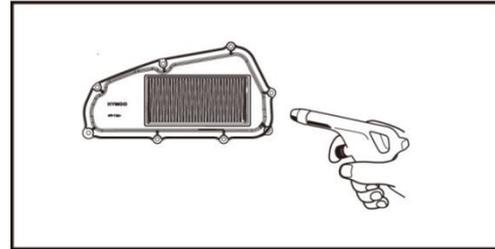
湿度の高い環境にバイクを放置または走行すると (例：雨天または洗車など)、内部と外部の気温が異なるため、メーターやランプカバーの内部に霧や僅かな水滴が生じることがありますが、これは故障ではありません。ただしメーターやランプカバーに大量の水滴や水が溜まる場合、KYMCO 正規販売店で点検を受けてください。

■ エアフィルターの点検

- 本モデルのエアフィルターは紙繊維を使用しています。2000 キロごとに点検と清掃を行ってください。
- 5000 キロごとに定期的に新しいものに交換してください。

■ CVT システム用フィルターの点検

- 5000 キロごとに定期的点検、清掃、フィルター交換を行ってください。



⚠️ ご注意

下記の場合は、清掃をより頻繁に行うか早目に交換してください。

- 頻繁に雨天走行をする場合。
- ほこりが多い路面を頻繁に走行する場合。

6. 走行前の点検

■ オイル交換

<交換の時期>

最初は 300 キロで、その後は 2000 キロごとに交換します。

エンジン性能を良い状態に保つため、500 キロごとにオイル量を点検し、不足している場合は基準量まで継ぎ足してください。

オイルの容量：

分解時：0.9 L

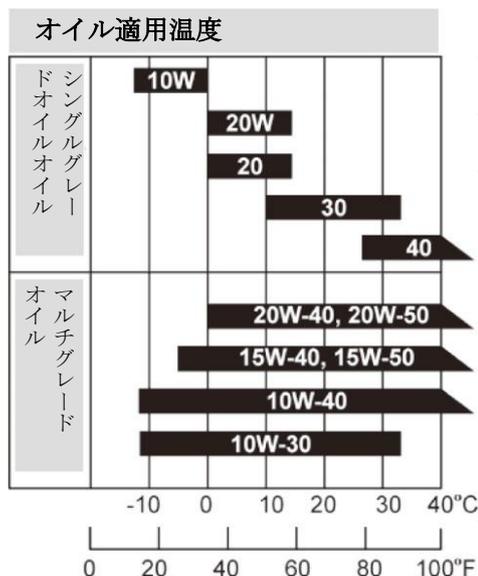
交換時：**0.8 L**



ご注意

- バイクの使用頻度が少なく、3 か月間の走行が 2000km に満たない場合、オイルは劣化することがあるため、オイル交換を行って、オイル劣化によるエンジン破損を防ぐようお勧めします。

■ オイル適用温度



ご注意

- 質の劣ったオイルを使用しないようにするため、KYMCO 正規販売店でオイル交換を行ってください。

6. 走行前の点検

<交換方法>

1. オイルゲージをはずします。
排油ボルトをはずし、オイルをすべて排出します。
 - エンジンが暖まっている状態ではオイルがより容易に排出されます。
2. 排油ボルトをきれいに拭き、再び装着します。
3. 新しいオイルを注入します。注入量は**0.8 L**です。
 - オイルゲージで油量を確認します。(特定時にはゲージをねじ込まないでください)
4. オイルゲージを確実に締めます。
5. 暖機運転を行い、運転停止から約 10-20 秒後に再びオイル量を確認します。



オイル排出用ボルト

⚠ 留意点

- 4 ストローク用 KYMCO 専用オイルをご使用ください。
- 下記の条件下で使用するとオイルが早く劣化しますので、早目に交換してください。
 - 頻繁に砂利道を走行する。
 - 頻繁に短距離を走行する。
 - アイドリング運転の時間が長い。
 - 寒冷地で使用する。
- オイルを補充する際、油量が目視用ゲージの上限を超えないようにしてください。
- メーカーや等級が異なるオイル、または低品質のオイルを混合して使用するとエンジンの故障につながります。
- エンジン高温時にオイル交換をする際は、やけどしないよう注意してください。

注記：排油ボルトを締める前に、オイルフィルターをきれいにしてください。

6. 走行前の点検

■ オイル交換に当たっての注意事項

- オイル量は多すぎても少なすぎてもエンジン性能に影響を及ぼします。

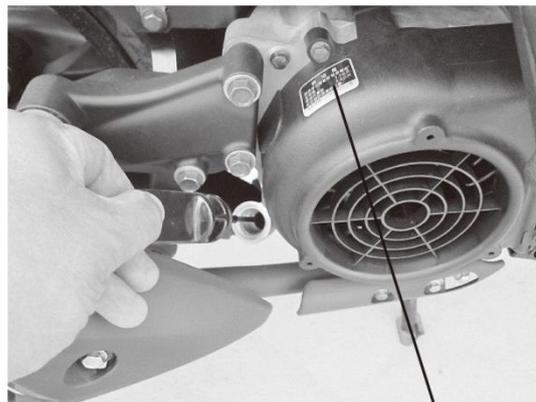
多すぎる場合—

運転に際して摩擦部の抵抗が増大するため、出力低下やオイル温度の上昇を招き、オイルの劣化が早まります。

少なすぎる場合—

運転時に摩擦部へのオイル供給が少なくなるため、部品の摩耗や焼き付きなどの原因となります。

- メーカーや等級が異なるオイル、または低品質のオイルを混合して使用するとエンジンの故障につながります。
- KYMCO 専用オイルは、製造過程で各種の添加剤を加えています(例:オILTリートメント)。
- 市販されている添加剤を混合すると、油性が劣化し、潤滑性能を落としてエンジンの寿命を縮めることになります。



オイル量表示シール

6. 走行前の点検

■ ギヤオイルの交換

<交換の時期>

新車は最初の 300 キロで、その後は半年または 3000 キロごとに交換してください。

推奨ギヤオイル：

KYMCO ギヤオイルまたは SAE90 規格のギヤオイル。



ギヤオイル排油ボルト

ギヤオイル注入口ボルト

ギヤオイルの容量

全容量：120cc

交換量：110cc

<交換方法>

1. 平坦な場所でセンタースタンドを立てます。
2. 排油ボルトとギヤオイル注入口ボルトをはずします。
3. ギヤボックス内のギヤオイルがすべて出るようエンジンが暖まっている状態で交換するようにしてください。
4. 排油ボルトを洗淨してから締めます。
5. ギヤオイル注入口からギヤオイルをゆっくり注入します。(ギヤオイルの交換量に従って交換します)
6. ギヤオイルの注入後、注入ボルトをしっかり締め、オイルが漏れ出ないようにします。
7. 新車は最初の 300 キロで、その後、半年または 3000 キロごとに交換します。

ご注意

下記の場合、頻繁にギヤオイルを交換してください。

- 頻繁に雨天走行をする。
- 長時間にわたり長距離走行をする。
- 重負荷走行をする。

6. 走行前の点検

■ スパークプラグの点検と調整

電極が汚れていたりギャップが大きすぎると点火しにくくなります。

<清掃方法>

- スパークプラグクリーナーで清掃するのが最適です。
- クリーナーがない場合、ワイヤーブラシを用いることができます。

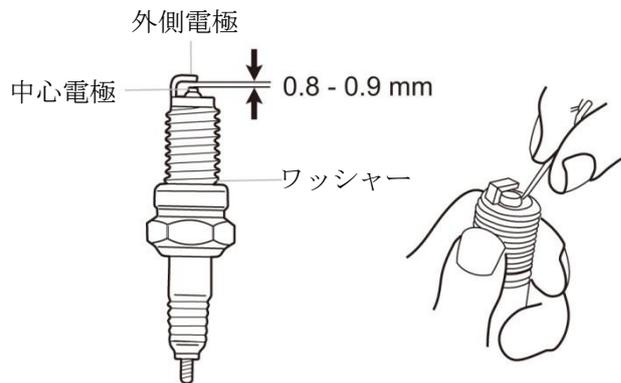
<調整>

- スパークプラグの正常なギャップは 0.8～0.9mm です。(右図参照)

<指定スパークプラグ>

(NGK) **CPR8EA**

- 指定スパークプラグ以外の製品は絶対に使用しないでください。



⚠️ ご注意

- エンジン停止後には高温になっていますのでやけどしないようご注意ください。
- スパークプラグを手でねじ込んだ後、プラグレンチでしっかり締めてください。

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

7-1.注意事項

7-2.定期メンテナンス一覧表

7-4.バッテリー点検

7-5.ヒューズ交換

7-6.エアフィルター

7-7.CVT システム用フィルター

7-8.注意事項

7-9.故障した場合

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

注意事項：

点検の結果、清掃、調整、交換などが必要である場合、定期点検記録表の説明に従って実施してください。

メンテナンス記録

規定走行距離 (キロ)	メンテナ ンス 項目	実際走行距離	メンテナ ンス 代理店 確認印	メンテナ ンス日付	規定走行距離 (キロ)	メンテナ ンス 項目	実際走行距離	メンテナ ンス 代理店 確認印	メンテナ ンス日付
				年 月 日					年 月 日
300					12000				
1000					13000				
2000					14000				
3000					15000				
4000					16000				
5000					17000				
6000					18000				
7000					19000				
8000					20000				
9000					21000				
10000					22000				
11000					23000				

重要メンテナンス項目の記号：

A：オイル交換。B：ギヤオイル交換。C：エアフィルター清掃または交換。D：燃料ポンプのオイルフィルター交換。E：スパークプラグ清掃または交換。F：オイルフィルター清掃。

G：アクセルワイヤー清掃または調整。H：ブレーキワイヤー点検または調整。I：ダンパーのギャップ調整。J：汚染制御システムのユニット点検、清掃、交換。◎その他は定期点検メンテナンス一覧表を参照



ご注意

メンテナンス時には安全に注意してください。

- 平坦な場所でセンタースタンドを立ててください。
- 適切な工具を使用して作業してください。
- エンジン停止状態で整備作業を行ってください。
- エンジンの停止後、エンジンやマフラーは高温になっていますので、やけどしないように注意してください。

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

公害低減定期メンテナンス一覧表

走行の安全性を高め、使用寿命を延ばすと同時に、排気汚染を低減するため、定期点検とメンテナンスを確実に行ってください。

エバボ免散防止装置および定期点検メンテナンスの項目・スケジュール：

I：点検，必要時に清掃、潤滑、補足、修正、交換する。A：調整する。C：清掃する。R：交換する。T：確実に締める。M：修理・メンテナンスする。D：診断器を点検する。

作業項目	メンテナンス走行距離															備考	
	300	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000		15000
潤滑系統	エンジンオイル	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
	オイルフィルター	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
燃料供給装置	ギヤオイル	R			R			R			R			R			R
	燃料ポンプ/燃料ポンプフィルター			I/C				I/C			I/C						I/C
	アクセルワイヤー			I				I			I			I			I
空気供給装置	エアフィルター			C			R		C		R		C			R	
	チャコールキャニスター			I			I		I		I		I			I	
	駆動装置フィルター			C			R		C		R		C			R	
	PCV 蒸発制御バルブ			I			I		I		I		I			I	
	制御用空気パイプ			I			I		I		I		I			I	
駆動装置	触媒コンバーター			I			I		I		I		I			I	
	カムチェーン			I			I		I		I		I			I	
	ドライブチェーン (本モデルには装着されていません)																
	ドライブベルト			I			I		M		I		M			I	
イグニションシステム	バルブギャップ			I			I				I					I	
	スパークプラグ 4ストローク			I			I		I		R		I			I	
エンジン制御システム	イグニション回路						I				I					I	
	スロットル						M/I				M/I					M/I	
	燃料ノズル				D/M		D/M		D/M		C		D/M			D/M	
	補助エアレギュレーター						D/M				D/M					D/M	
	エンジン水温センサー				D		D		D		D		D			D	
	吸入空気圧力センサー				D		D		D		D		D			D	
	転倒センサー				D		D		D		D		D			D	
	イグニションコイル				D		D		D		D		D			D	
	バッテリー				D		D		D		D		D			D	
その他	車体の重要ボルト	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T
	ブレーキシステム (ディスクブレーキ)	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	ブレーキワイヤー	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I

非定期メンテナンス

項目	現象および処理
イグニションシステム	イグニションの頻繁な異常、エンジン過熱、エンジン停止が生じる場合、メンテナンスまたは点検を行ってください。
カーボン除去	10000-15000キロまでにエンジンの馬力が大幅に低下した場合、排気システム、シリンダーヘッド、ピストン、スロットル、燃料ノズルのカーボンを除去してください。
駆動装置	5000キロまでにターボ性能が大幅に低下した場合、CVTシステムのメンテナンスと点検を行い、必要ならば交換してください。
ピストン	1000キロ以前若過激使用可能使ピストン、ピストンリング、シリンダーが摩耗または焼き付きを起こします。清掃、ポーリング、新品の交換を行ってください。
燃料ノズル	1000キロごと、または長時間未使用時には燃料ノズルのカーボンなどの不純物を除去してください。

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

公害低減定期メンテナンス一覧表

走行の安全性を高め、使用寿命を延ばすと同時に、排気汚染を低減するため、定期点検とメンテナンスを確実に行ってください。

エバボ発散防止装置および定期点検メンテナンスの項目・スケジュール：

I：点検，必要時に清掃、潤滑、補足、修正、交換する。A：調整する。C：清掃する。R：交換する。T：確実に締める。M：修理・メンテナンスする。D：診断器を点検する。

作業項目	メンテナンス走行距離														備考		
	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000		
潤滑系統	エンジンオイル	R		R		R		R		R		R		R		R	I：点検 A：調整 C：清掃 R：交換 T：確実に締める M：修理・メンテナンス D：診断器の点検 ● 修理、メンテナンス、診断器の点検などの項目は、全国の代理店で標準の手順に従って実施してください。 ● 走行中または点検において、清掃、潤滑、補足、調整、交換の必要があることに気づき、排気汚染上重大な影響を与えていないのであれば、それらを実施し記録します。排気汚染に重大な影響を与える場合、届出を出した後、実施してください。 ● 1000km ごとに KYMCO 指定のノズルクリーナーをガソリンタンクに入れるようご提案します（用量は指示に従う）。 ● CVT Outter クラッチカバーは、定期メンテナンス時に内部の異物や不純物を除去してください。 ● 燃料ノズルとスロットルは、3 か月ごと、または 10000km 以内に清掃してください。
	オイルフィルター		C			C					C					C	
燃料供給装置	ギヤオイル			R		R			R			R				R	
	燃料ポンプ/燃料ポンプフィルター		I/C			I/C				I/C						I/C	
空気供給装置	アクセルワイヤー		I			I				I						I	
	エアフィルター		C			R	C			R		C				R	
	チャコールキャニスター		I			I				I						I	
	駆動装置フィルター		C			R	C			R		C				R	
	PCV 蒸発制御バルブ		I			I				I						I	
	制御用空気パイプ		I			I				I						I	
駆動装置	触媒コンバーター		I			I				I						I	
	カムチェーン					I				I						I	
	ドライブチェーン(本モデルには装着されていません)																
	ドライブベルト		I			I		M		I			M		I		
イグニションシステム	バルブギャップ		I			I				I						I	
	スパークプラグ 4 ストローク			I		I				R		I				I	
エンジン制御システム	イグニション回路					I				I						I	
	スロットル					M/I				M/I						M/I	
	燃料ノズル			D/M		D/M	D/M			C		D/M				D/M	
	補助エアレギュレーター					D/M				D/M						D/M	
	エンジン水温センサー		D			D		D		D		D				D	
	吸入空気圧力センサー		D			D		D		D		D				D	
	転倒センサー		D			D		D		D		D				D	
	イグニションコイル		D			D		D		D		D				D	
その他	バッテリー		D			D		D		D		D				D	
	車体の重要ボルト	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	
	ブレーキシステム(ディスクブレーキ)	I	I	I	I	I	I	I	I	I	M	I	I	I	I	I	
	ブレーキワイヤー	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	

非定期メンテナンス

項目	現象および処理
イグニションシステム	イグニションの頻繁な異常、エンジン過熱、エンジン停止が生じる場合、メンテナンスまたは点検を行ってください。
カーボン除去	10000-15000 キロまでにエンジンの馬力が大幅に低下した場合、排気システム、シリンダーヘッド、ピストン、スロットル、燃料ノズルのカーボンを除去してください。
駆動装置	5000 キロまでにターボ性能が大幅に低下した場合、CVT システムのメンテナンスと点検を行い、必要ならば交換してください。
ピストン	1000 キロ以前若過激使用可能使ピストン、ピストンリング、シリンダーが摩耗または焼き付きを起こします。清掃、ポーリング、新品の交換を行ってください。
燃料ノズル	1000 キロごと、または長時間未使用時には燃料ノズルのカーボンなどの不純物を除去してください。

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

バッテリー点検

- 本モデルは、補充不要型バッテリーを採用しています。

- バッテリー液の点検と補充は必要ありません。

バッテリー電圧の点検：

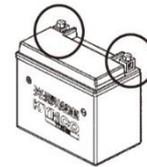
電圧計でバッテリー電圧が 12V 以上であることを確認してください。電圧が低い場合はバッテリーを取り外して充電してください。

ご注意

- 密閉式バッテリーの電解液カバーは絶対に開けないでください。
- バッテリーを長期間使用しない場合は、自然に放電し電力が低下します。バッテリーを取り外し、完全に充電した後に通気良い涼しい場所で保管することをお勧めします。
- バイクを長期間使用しない場合は、バッテリーのマイナス端子をはずしてください。
- バッテリー電圧が低くなるとメーターパネルのバッテリーインジケーターが点灯します。バッテリーをはずして充電するか KYMCO 正規販売店で点検を受けてください。

■ バッテリー端子の清掃

- バッテリー端子を清掃するには、シートを上げ、バッテリーカバーの固定ネジをはずして、バッテリーカバーを開きます。
- バッテリー端子に腐蝕が生じていた場合、バッテリーを取り外して清掃してください。
- 清掃後、バッテリー端子にグリスまたはワセリンを薄く塗布し、バッテリーを装着してください。



ご注意

- バッテリーを取り外した際、火気に近づけないようにしてください。
- 取り外しの際には、イグニッションの電源を切り、まず⊖極をはずしてから⊕極をはずします。装着時にはまず⊕を装着し、次に⊖極を装着します。
- ターミナルが緩んでいる場合、確実に締めてください。

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

ヒューズの交換

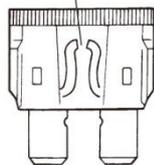
- イグニッションを OFF にしてヒューズが切れていないかを確認します。
- ヒューズ交換時には定格容量のものと交換してください。
- 交換時にはまず切れた原因を調べてから交換してください。

ヒューズの規格：25A、10A、10A。

ご注意

- 電装品（ランプ、メーター）の交換時には定格部品を使用してください。
- 規格に合わない場合、ヒューズが容易に切れ、バッテリーの負荷に異常が生じます。
- 洗車の際には、強力な水圧を避けてください。

溶解



7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

エアフィルター

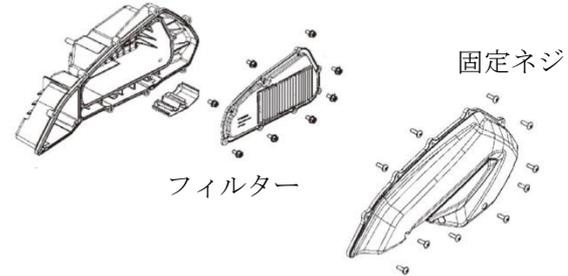
埃がたまると馬力が落ち燃費が悪くなります。

<取り外し>

1. フィルターカバーの固定ネジをはずします。
2. フィルターカバーをはずします。
3. フィルターの固定ネジをはずします。
4. フィルターを交換します。

<装着>

上記と逆の手順で装着します。



⚠ ご注意

- エアフィルターの装着が不完全だと、埃がシリンダー内に直接入り、摩耗が生じ、馬力の低下やエンジンの寿命低減を引き起こします。
- 洗車時にはエアフィルターを濡らさないように気を付けてください。フィルターが濡れると始動しにくくなります。

7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

CVT システム用フィルター

CVT システムに埃がたまると、バイクに異常が生じやすくなります。定期的にフィルターの清掃と交換を行ってください。

7-2 ページの定期メンテナンス表の周期に従ってフィルターを清掃してください。

5000 キロごとにフィルターの交換または清掃を行ってください。

<フィルターの交換>

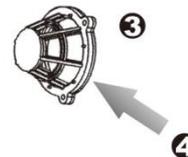
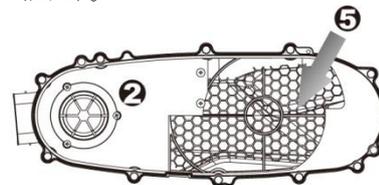
1. 左クランクケースカバーの固定ボルトをはずします (図 1)。
2. フィルターの 3 つある固定ネジをはずします (図 2)。
3. エアフィルターを交換します (図 3)。

<装着>

上記と反対の手順で装着します。

<清掃方法>

1. 左側クランクケースカバーの固定ボルトをはずします。
2. 左側クランクケースカバーにあるフィルターの 3 つの固定ネジをはずします。
3. エアブロウガンでフィルター本体を清掃し (図 4) 左側クランクケースカバー内側の汚れを拭き取ります (図 5)。



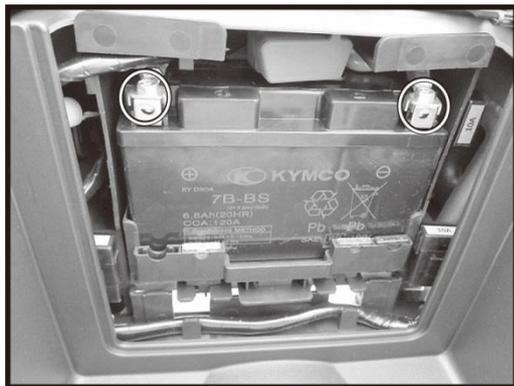
①

左側クランクケースカバー

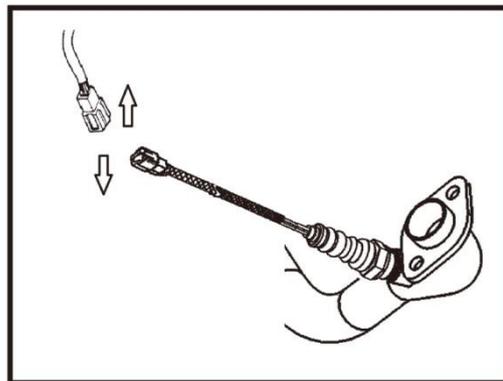
7. 定期および簡易メンテナンス、故障の処理

注意事項：

1. イグニッションが **ON** の時には、バッテリーの接続線を抜かないでください。



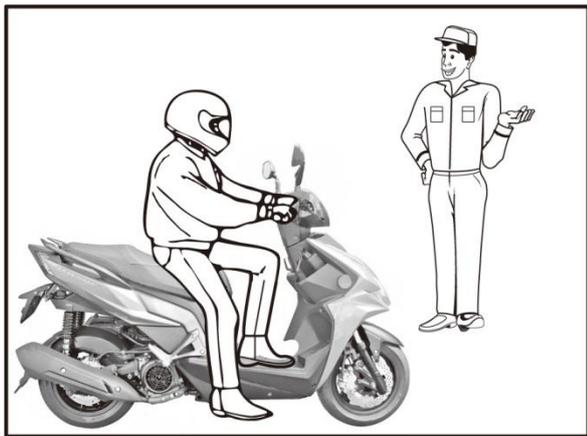
2. ユーザーまたはサービスマニッックは、マフラーの交換を行う前に、O₂ センサーのプラグを抜いてください。



7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

故障した場合：

走行中に故障した場合、KYMCO 正規販売店で修理してください。製造元の部品を交換するようご提案します。



エンジンが始動しない、走行中に停止するなどの場合、まず下記の点を点検してください。

- ガソリンはまだありますか？
燃料インジケーターが E に近づいた場合、無鉛ガソリンを給油してください。
- エンジン始動の方法は正確ですか？
- その他、異常がある部分はありませんか？



7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

● 二輪車を廃棄する場合は？

お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談下さい。
廃棄二輪車取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証

● リサイクル料金とは？

廃棄二輪車を適正な処理を行い、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車はリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれておりますので、リサイクル料金は発生しません。

ただし、運搬及び収集費用は含まれておりませんので、お客様から廃棄二輪車取扱店、および指定引取所まで運搬及び収集費用はお客様負担になります。

● 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体から剥がさないで下さい。紛失、破損による再発行、部品販売の取扱いはございません。



7.定期および簡易メンテナンス、故障の処理

廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」又は下記までお問い合わせ下さい。

(財)自動車リサイクル促進センター内

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 050-3000-0727

受付時間 9時 30分～17時 00分

(土日祝日を除く)

● リサイクルマーク貼付位置



リサイクルマークはトランクボックス内側、前方に貼付されています。

8. クリーンシステムとそのメンテナンス

8-1. エバポ発散防止装置

8-2. エバポ発散防止装置のメンテナンス

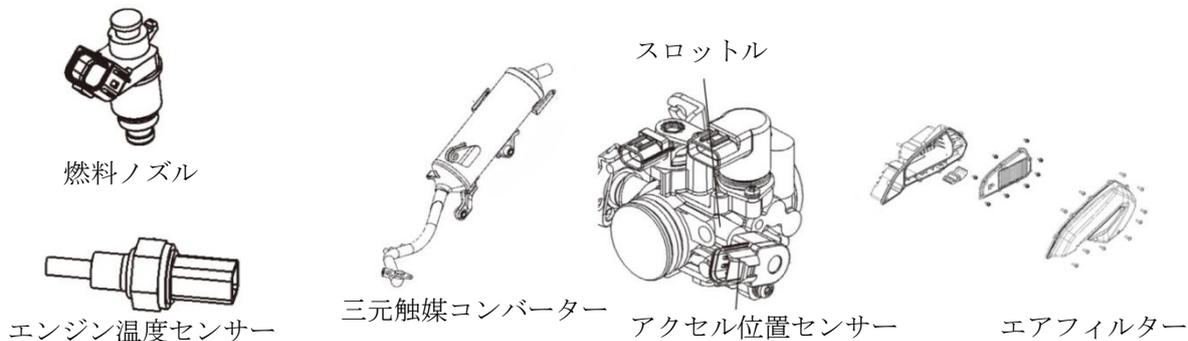
8-3. エバポ発散防止装置

8-4. エバポ発散防止装置の点検

8-5. 公害の原因、排気濃度、罰金、
騒音値などの基準参考表

8. クリーンシステムとそのメンテナンス

エバポ発散防止装置：本モデルの排気制御装置は燃料噴射装置を利用して効果的に汚染の排出を制御し、さらに排気システムの三元触媒コンバーターにより汚染を変化させることで、排気汚染を最低限に抑えます。



⚠ 警告

マフラーは非常に高温になっています。メンテナンスは通行者や子供が触れることのない場所で行ってください。

⚠ ご注意

1. エバポ発散防止装置が正常に作動するよう、定期点検とメンテナンスを心がけてください。
2. エバポ発散防止装置が正常に作動し、排気汚染により罰せられることのないよう、改造は行わないでください。
3. 異常がある場合、当社の代理店で点検を受けてください。

8. クリーンシステムとそのメンテナンス

エバポ発散防止装置のメンテナンス

作業手順

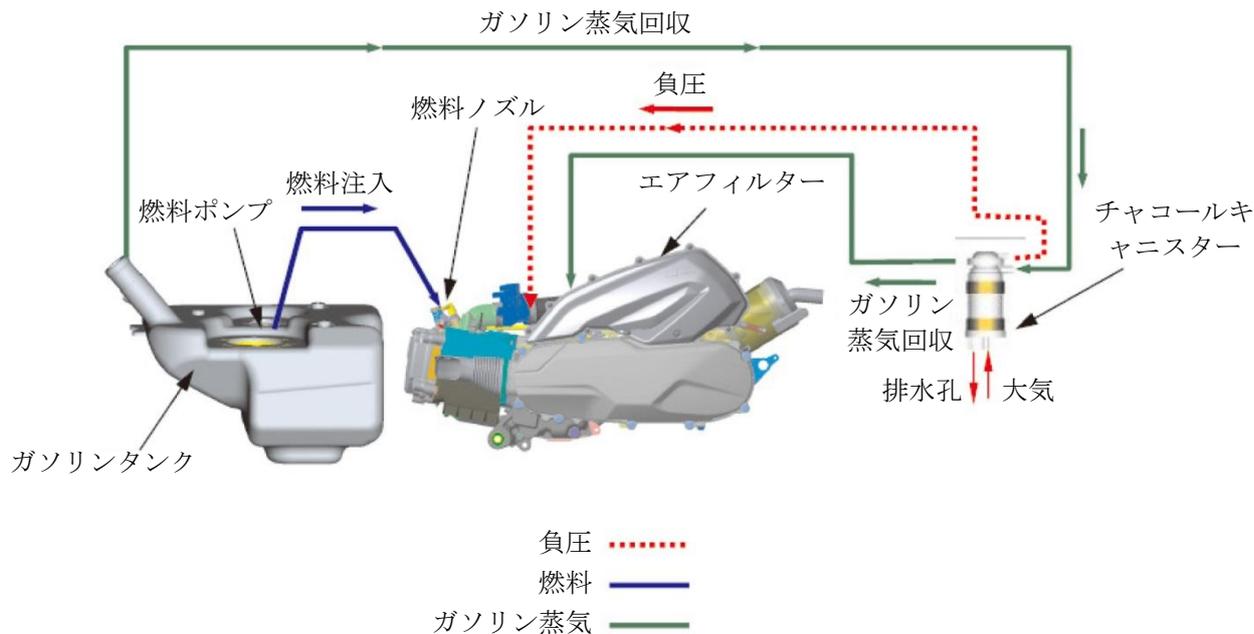
1. エアフィルターの清掃は 7-6 ページの手順を参照してください。
2. エンジンオイルはエンジンの潤滑性能を高め、作動を良くするためのものです。新車は最初の 300 キロで、その後 2000 キロごとにオイル交換をしてください。
3. ガソリンはイグニションシステムの性能と燃焼効率に大きく影響を与えますので、必ず無鉛ガソリンを使用するようにし、有鉛ガソリンの使用を厳禁します。（有鉛ガソリンを使用するとマフラー内の触媒コンバーターが劣化し機能を喪失させます）
4. 噴射機種種の排気濃度試験に関連した排気点検基準値に適合するため、排気点検ステーションまたは定期点検ステーションで調整を受けてください。（台湾）

排気点検基準値：

「第六期法規」（台湾）	R.P.M	CO%	HC ppm
使用中法定値		2.0 以下	1000 以下
触媒前点検値	1800±100	0.3~1.5	

8. クリーンシステムとそのメンテナンス

エバポ発散防止装置 (E.E.C) はガソリン蒸発の除去装置で、ガソリントankとスロットル内で蒸発したガソリン蒸気をチャコールキャニスターに収集し、エンジン負圧制御 P.C.V.バルブを利用して、吸入管に負圧が生じた際に P.C.V.バルブが開き、チャコールキャニスターのガソリン蒸気がエンジン燃焼室で再燃焼して使用されるようにします。こうしてガソリン蒸気の放出を防止して環境と空気の汚染を防ぎます。



8. クリーンシステムとそのメンテナンス

エバポ発散防止装置 (E.E.C)

定期点検の手順：

1. E.E.Cシステムの接続部が確実に締まっているか、破裂がないかを点検します。緩みがあれば確実に締め、破裂があれば新品に交換します。
2. チャコールキャニスターは、空気を吹き込むことで通気性を試験します。通気が不良または詰まりがある場合、新品に交換してください。
3. ガソリン蒸気分離器：チャコールキャニスターに通じるパイプをはずし、圧縮空気を吹き込み、通気が良好なら合格、不良の場合は新品に交換してください。
4. エバポ発散防止装置メンテナンス項目表に従い、メンテナンスを行ってください。

非定期点検：

事故が生じた際は、E.E.Cシステム中のパイプと部品が破裂したり外れたりしていないかを点検してください。エバポ発散防止装置メンテナンス項目表に従い、定期メンテナンスを行ってください。

提案事項：

1. 本モデルの排気汚染値は、「六期法規」(台湾)の基準に基づいています。調整可能パラメータの設定はみだりに変更しないでください。
2. エバポ発散防止装置の真空パイプは取り外したり修正したりしないでください。
3. 排気汚染を低減させるため、アイドル運転の際に、アクセルをふかさないでください。
4. 定期メンテナンスの際に異常があった場合(始動不良、黒煙排気など)、当社指定の特約サービス店で修理やメンテナンスを受けてください。
5. 汚染ユニットの使用機能を守るため無鉛ガソリンだけを使用するようにしてください。

8. クリーンシステムとそのメンテナンス

公害の原因、排気濃度、騒音値などの基準参考表

アイドリング時の排気濃度が高い原因参考表

CO	HC	考えられる原因
高い	正常	ガソリンと空気の混合比が高すぎる
正常	高い	1. イグニッションシステムの不良。 <ul style="list-style-type: none">● イグニッションのタイミングが合わない。● スパークプラグに汚れが溜まっている、またはギャップが不適切。● イグニッションコイルの不良。 2. 排気弁の摩耗。 3. シリンダーの摩耗。
低い	高い	1. 混合気が薄すぎ、イグニッションが不良。 2. 真空漏れ： <ul style="list-style-type: none">● 真空管接続 ● 吸入管 ● 接続部ワッシャー
高い	高い	1. エアフィルターが不通。 2. アイドリング混合気が濃すぎる。 3. O ₂ センサー故障により混合比が濃くなりすぎる。 4. 触媒の被毒または失効により汚染軽減の無力化。

騒音測定値

モデル	原地騒音検定値 dB (A)
RACING S 150	87

9.諸元表

9-1.RACING S 150 諸元表 (SR30JC/SR30JD)

9.諸元表

RACING S 150 シリーズ

項目	(SR30JC/SR30JD) 諸元
エンジン型式	SR30B
排気量	149 c.c.
シリンダー内径 x 行程	Φ59mm × 54.5mm
圧縮比	10 : 4
変速	CVT
クラッチ	乾式遠心式
イグニション	ECU 制御インダクティブイグニション
始動方法	セルモーター
ガソリタンク容量	5.7L
オイル全容量	0.9L
ギヤオイル全容量	120cc
全長	1855mm
幅	750mm
全高	1100mm

項目	諸元
ホイールベース	1270mm
空車重量 (整備重量)	128kg
タイヤ	前輪 110/70-12 後輪 120/70-12
使用燃料	無鉛ガソリン
バッテリー容量	12V6.8Ah (型式番号 7B-BS)
スパークプラグ	NGK CR8EA

以上諸元は実際モデルに基づく。

10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

10-1.noodoe システムの使用方法

10-2.noodoe の機能紹介

10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

noodoe システムの使用方法

ステップ 1 アプリのダウンロード : 「noodoe アプリのダウンロード」からダウンロードすると、自動的にインストールされます。

ステップ 2 操作キーについては、「右レバースイッチの操作キー紹介」をご覧ください。

ステップ 3 バイクとの接続については、「バイクとのペアリング」および noodoe 創作アップロード機能をご覧ください。

A アプリの機能については、「アプリ機能紹介および創作モード」をご覧ください。

B 位置情報機能については、「位置情報機能」をご覧ください。

C 通知機能については、「通知機能」をご覧ください。

D ウェルカムライトの機能については、「ウェルカムライト」をご覧ください。

10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

noodoe 機能の起動

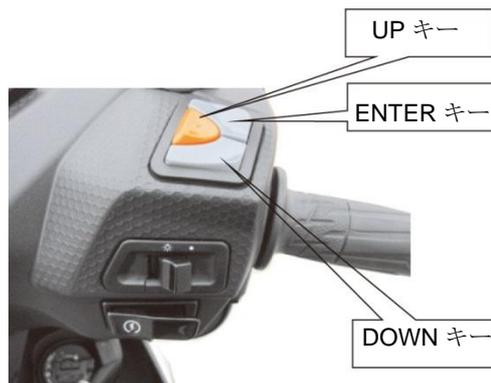
ステップ 操作キー

ステップ1 アプリのダウンロード：“noodoe アプリのダウンロード”からダウンロードすると、自動的にインストールされます。

Play ストア (Android) および App Store (iOS) から、キーワード「noodoe」で検索できます。

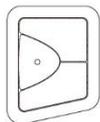


- ◆ 最低バージョン：Android 4.4 以上、iOS 9 以上。
- ◆ 携帯電話から Google サービスを利用できない場合、アプリがスムーズに動作しません。



10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

走行時



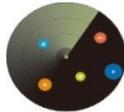
- UP および DOWN キーにより、noodoe メーターで 4 つの画面に切り換えます。
- この時、ENTER キーは機能しません。



(時計)



(天気)



(コンパス)



(速度)

停止時

通知機能：

- UP および DOWN キーにより、noodoe メーターで通知機能に切り替わります。
- ENTER キーにより通知機能を ON または OFF になります。

ステップ3 バイクとの接続

バイクを携帯電話を接続する場合、アプリを起動し（携帯電話） → 設定（携帯電話） → バイク設定（携帯電話） → キーON（バイク） → 操作キーで新ユーザーまたは旧ユーザーを選択（バイク） → ENTER キー で「ペアリングモード」を起動（バイク） → Bluetooth を選択（携帯電話） → 接続（携帯電話） → コード入力（携帯電話およびバイク） → ENTER → ペアリング成功。



ユーザーは創作したメーターをバイクに使用することができます。

- 携帯電話の表示



- メーター表示



創作のアップロード

ユーザーは創作したメーターをバイクに使用することができます。

10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

noodoe の機能

A アプリの機能紹介

- ユーザーは世界各地のユーザーが創作した作品を閲覧し収集して、自車のメーターに使用することができます。
- 様々な創作作品を収集、編集したり、創作モードで自分のパネルを設計したりすることが可能です。



創作モード

- 創作モードではオリジナルの画面を設定することができます。
- 時計、天気、コンパス、速度を選択し、創造力を発揮してください。色やフォントの変更、自分の画像のアップロードなど無限の可能性を秘めています。



10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

B 位置情報

- 愛車をどこに停めたかを忘れてしまった場合・・・noodoe が停車位置をお知らせします。
-  をクリックすると、プログラムが最後に駐車した場所までご案内します。
- マップまたはプログラムのガイドにより、距離や方向を示して、バイクの位置を知らせます。



携帯電話の Bluetooth とインターネット機能を ON にします。

位置情報は 2 種類の方法で表示されます。

1. マップモード
2. 方位モード

C 通知機能

携帯電話と一たび接続されると、入力情報はすべてバイクのパネルに送信されます (Android のユーザーは設定画面から最初に選択するプログラムでの表示を選択することができます)。

- バイク移動時 :



noodoe メーターの上方に情報図が表示されます。(安全運転のため、バイク移動中は情報が閲覧できません)

- バイク停止時 :



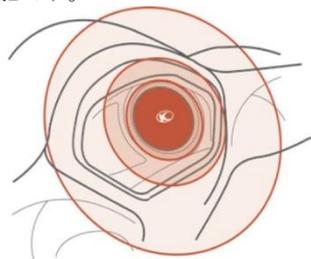
走行時に得られた情報は、次の停車時に自動的に表示されます。

右ハンドルスイッチの ENTER キーを押して情報を確認することもできます (停止時に限りません)。

10.noodoe 車載ネットワークの機能紹介

D ウェルカムライト

所有者が自分の愛車に近づくと、ウェルカムライトが点灯して歓迎します。広い駐車場や夜間で愛車を見つけない時に実用的な機能です。



- ◆ noodoe を使用する際は携帯電話とバイクバッテリーの電力が十分である必要があります。エンジンを始動して充電する場合、通気が良好な場所を選んで始動してください。
- ◆ バッテリーの電圧が低下すると、noodoe システムは自動的に OFF になります。エンジンが始動しても使用できない場合、代理店で点検を受けてください。

ご注意：エンジンの始動中に noodoe 接続を行うようお勧めします。

長時間エンジンを始動していない時に noodoe に接続しないでください。バッテリー電圧が下がり、始動できなくなる恐れがあります。

ご注意：

1. 天気や地区表示データ資料の正確性を保つため、携帯電話の GPS とインターネット機能をオンにしてください(携帯電話の電波がない場合、それまでの情報が表示され、電波が正常に戻った際に新たな情報が表示されます)。
2. 速度/温度/時間の単位の設定は、いずれも携帯電話から行うことができます。データ更新は周波数による僅かな誤差の影響を受けることがあります。
3. Bluetooth のスキャン速度と結果は携帯電話の規格や互換性の影響を受けることがあります。
 - a. Bluetooth のスキャンが遅い
 - b. ペアリングが成功しない
 - c. 接続中に Bluetooth のエラーが生じる
4. ユーザーは、noodoe で情報を表示するため、携帯電話で情報共有を設定する必要があります。
5. 走行中は、noodoe メーターは情報を表示しません(着信記録、SMS、LINE、Facebook など)。停止した時に、noodoe は自動的に着信などの情報データを表示します。
6. 電源を切る前の最後の画面が、次回起動する際に表示されます。
7. コンパス機能を使用するには携帯電話から設定する必要があります。データ更新は、周波数による僅かな誤差を生じることがあります。
8. コンパス機能は、バイクを購入に移動を開始すると、自動的に走行方向を判断して修正を行います。そのため、メーターと noodoe アプリの接続後、走行前に方位の修正ができないのは正常です。
9. 携帯電話と noodoe の接続後、noodoe は時間を自動的に修正します。
10. 事故の原因となるため、走行時には noodoe の操作を行わないでください。

RACING S 150 シリーズ取扱説明書

台湾光陽工業股分有限公司

第 1 版-2017 年 10 月

版權所有

台湾にて印刷

「台湾地区で販売される **KYMCO** の製品はすべて台湾で設計、製造、品質管理されています。」

KYMCO's products sold in Taiwan are all designed, manufactured, and quality controlled in Taiwan.

